

会 議 概 要 書

審議会等の名称	平成28年度 第2回磐田市子ども・子育て会議
担当部課名	こども部子育て支援課
会議の開催日時	平成29年3月24日（金）13：30～15：30
会議の開催場所	磐田市総合健康福祉会館 i プラザ 2 F ふれあい交流室 2
出席者（職・氏名）	<p>委員：石川亜佳、梶田義高、竹原文子、中野眞、阿部高寿、座光寺明、寺澤達也、井上佳子、山田悟史、三輪邦子（敬称略）</p> <p>（10名、阿部高寿委員、原田征己委員は欠席）</p> <p>事務局等：</p> <p>教育部：菌田欣也教育総務課長、清水大輔児童総務G長、細谷孝行主任</p> <p>こども部：水野義徳部長、鈴木都実世幼稚園保育園課長、寺田尚人幼保運営G長、高比良紀恵子子育て支援課長、金子和由発達支援室長、伊藤修一子育て支援G長、春田恵理子母子保健G長、大石優</p>
議 題	<p>(1) 副会長の選任</p> <p>(2) 磐田市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況報告について</p> <p>(3) 磐田市幼稚園・保育園再編計画（第2期）について</p>
配付資料等の件名	<p>・磐田市子ども・子育て支援行動計画 施策評価シート</p> <p>・磐田市幼稚園保育園再編計画（第2期）</p> <p>※ 公表前のため会議終了後回収</p>
<p>【会議概要】</p> <p>1. 開会</p> <p>2. こども部長あいさつ</p> <p>◎ 子ども・子育て支援に係る課題認識（特に就学前を主な対象とするこども部について）</p> <p>◎ これから重要なことは『みんなで子どもの成長を支える社会基盤づくり』</p> <p>◎ 何よりも、一人ひとりが成長の各ステージで周りから認められ、自分を大切に思い、自己肯定感の強い子どもとして成長して行くよう支えることが大切</p> <p>◎ 本日の会議は、平成27年度からの五か年計画である「子ども・子育て支援事業計画」の実施状況を中心に報告させていただく予定であり、委員の皆様から幅広いご意見をいただきたい</p> <p>3. 新任委員紹介</p> <p>近藤委員、高瀬委員（前副会長）の退任により、後任に中野委員、原田委員が就任。中野委員より挨拶・自己紹介をいただく。原田委員は都合により欠席のためお名前の紹介のみ</p>	

4. 議題説明・意見交換

①副会長の選任について

条例第4条第3項の規定により会長が定めることとされている。会長から竹原委員を指名副会長から就任のあいさつをいただく

②磐田市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況報告について

事務局より計画の進捗状況について報告（資料参照）

事務局

行動指針Ⅰ「乳幼児期における質の高い教育・保育を提供するための体制づくり」

- ・「幼稚園の通園区域廃止の検討について」、平成29年度からは一次募集の段階から従来の小学校区に準じた通園区に限ることなく、入園できるような弾力的な運用に変更した
- ・各園の職員を支える研修会の実施について、幼稚園保育園課が主催する研修の成果を園内研修に生かす試みを実施しているほか、平成28年度には、静岡産業大学が持つスポーツ保育のノウハウを生かし、より質の高い教育・保育の提供を目指す協定を締結した
- ・幼稚園・保育園における再編・事業拡大及び新規事業による提供量の拡大については、本日の2番目の議題である「幼稚園・保育園再編計画」のところで具体的に説明するので、ここでは省略

行動指針Ⅱ「家庭・地域、関係機関が連携した子育て支援体制づくり」

- ・身近な子育て支援体制作りでは、子育て家庭のニーズや地域の子育て支援の実態として、平成28年度はひとり親家庭の方が受給している「児童扶養手当」の受給者を対象に、実態アンケートを実施したことに続き、平成29年度は、子育て世帯全般に対して、生活・子育ての実態やニーズ調査のアンケートを実施する予定
- ・また、身近に支援者がいない出産間もない母親の支援のために派遣している子育て相談員の制度について、今までは産後120日間までの利用としていたが、利用者の声を反映し、産前から派遣できるようにする制度改正を行うこととし、妊娠期からの切れ目ない支援につなげたいと考えている。
- ・小学生の放課後児童クラブについて、計画スタート時点では3年生までの利用に限られていたものを、平成27年度から6年生までに対象を拡大し運用している。利用者も増加する中で、施設整備を進め、平成28年度当初から続く待機児童ゼロを継続していく考え
- ・平成28年度末にかけて、5小学校で専用施設（プレハブ）の建設などの整備を進めており、29年4月当初に新たに開設するクラブが5クラブあり、合計で常設の放課後児童クラブは45クラブとなる予定
- ・子育て支援情報の提供について、メール配信サービス「いわたホッとライン」による情報提供を行ってきたが、利用端末が主にスマートフォンに移行する中、新たな情報提供手段として、平成29年度から「子育てアプリ」を導入し、対象者をしばった情報をピンポイントに発信することや、予

防接種のスケジュールリングや子どもの成長記録管理機能の付加も目指していく予定。

- ・相談窓口での情報提供について、子ども相談室を設け電話や来庁での相談に応じたり、子育て支援センターでも来館者の相談に応じたりすることを続けているが、相談数は増加を続けている。相談窓口の充実を目指し、豊田図書館を改装し、子育て相談機能と図書館機能を併せ持つ「(仮称) 子ども図書館」を作るべく、本年度は基本構想の策定業務を進めてきた。平成 29 年度には設計業務・改装工事を行い、平成 30 年度のオープンを目指し、引き続き進めていきたいと考えている。
- ・経済的支援に関してですが、本年度は「こども医療費」の助成に関して、制度の見直し検討を行った。これまでの助成制度では、通院 1 回 500 円、入院 1 日 500 円の自己負担をいただいていたが、平成 29 年 4 月から、中学生までの通院・入院にかかる自己負担をなくし、完全無料化する制度変更を行うことを決めた。この結果、より子育てしやすいまち・安心して子育てできるまちへ近づけたのではないかと考えている。

行動指針Ⅲ 「母親と子どもの健康保持増進のための支援の充実（母子保健計画）」

- ・母子健康手帳の交付と保健指導に関して、これまで、手帳交付時に様々な資料を妊婦さんに渡し、分かりにくかった部分を改善するため、必要な情報を集約し 1 冊にまとめた冊子を新たに作成し、平成 29 年度から配布を始めることとした
- ・乳幼児の発育・発達の支援として、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」として乳児全戸訪問を行っている。これにより、母子の状況把握を行い、こちらからの情報提供も確実に行う体制を整えている
- ・乳幼児の相談対応について、i プラザで実施している乳幼児相談以外に、地域の交流センターに地区担当保健師が出向いて行う「赤ちゃん相談」を行うなど、より地域に密着した形で相談ができるよう対応している。また、子育て支援センターでも職員が相談に応じているほか、栄養士や歯科衛生士などの専門職が巡回で相談に応じる事業も実施している
- ・予防接種事業の実施にあたっては、平成 28 年 10 月から B 型肝炎の予防接種が新たに始まった。これも含め、予防接種の種類は多種多様なため、問い合わせに応じるとともに、適正な接種の呼び掛けに努めている

基本指針Ⅳ 「子育てに適した人に優しく温もりのあるまちを創るための環境の整備・改善」

- ・適切な保育のための園庭環境の研究の一環として、平成 28 年度に 3 園において、園庭の芝生化を試験的に実施し、保育の充実を図った
- ・安全・安心な社会環境の整備という点では、子どもたちの安全を守るために、不審者情報のタイムリーな発信、交通事故多発箇所への誘導破線の設置などの安全対策を進めている

基本方針Ⅴ 「特別な配慮を要する子ども・家庭への支援の充実」

- ・発達支援体制づくりとして、発達支援センターはあとの運営に加え、就労支援までの一貫した発達

支援を目指し、施設整備の支援を行い、平成 29 年 4 月に開所を迎える運びとなっている。

- ・児童虐待・DVの防止に関しては、要保護児童等対策協議会において継続ケースに加え、新たに 32 件の新規ケースへの対応を検討・実施した。また、こども相談室・女性相談室においては、毎日のように電話や来所の相談に応じ対応している

基本指針VI「健やかな成長を目指す乳幼児期から中学校までの保育・学校教育・社会教育の充実」

- ・幼稚園・保育園・こども園に関しては、幼稚園保育園課が各種研修会の開催やカリキュラムの研究・検討を絶えず行っている
- ・小中学校においては、小中一貫教育を全 10 学府すべてで特色を生かしながら展開している。平成 29 年度は、学府一体校の皮切りとして、豊田の「ながふじ学府」一体校の基本・実施設計に着手していく予定となっている
- ・地域と一体となった教育の実現に向け、「学校運営協議会」を全校に設置し、地域を活かした体験学習を行ったり、学校の評価を地域の方が行ったりという取り組みが充実してきている
- ・教育機器の配備については、平成 28 年度に電子黒板を全校に設置したことに加え、29 年度以降 5 カ年計画で、小中学校の全教室に大型モニターを設置する事業を進めていく予定

行動指針VII「子育てに向き合うことができる就労環境及び家庭生活の実現について」

- ・市内の有効求人倍率は、この 1 年間で急速に改善してきている。市としても勤労者への情報提供として、パートタイマー就職面接会を新たに実施し、子育て中の女性を中心に支援を行っている。
- ・家庭生活と仕事の両立を実現する意識の向上に向け、それぞれの課で講座開催など啓発活動に努めている。計画の進捗状況報告は以上

委員から

- ・通園区域の自由化について、どんな状況か、何か変わった様子はあるか

事務局から

- ・今までも第二次募集から自由化という形で行っていたが、平成 29 年の 4 月からは一次募集からも自由化という形にした。今までも二次募集からは自由化していたこともあり、あまり大きな変化はない。ただ、勤務地に近い園を選ばれる方にとっては、サービスの向上となったとは考えている

委員から

- ・「公立と私立の格差是正の検討」について課題の洗い出しを行ったとあるが、どんなことを行ったか伺いたい

事務局から

- ・委員のご指摘のとおり、幼稚園保育料の公私格差はあり、そのことについて色々なご意見・ご指摘をいただくことはある。この後の議題 3 「幼稚園保育園再編計画（第 2 期）」の説明の中でもお話

させていただくが、公私格差を是正する方向に向けて、協議を進めているところである

委員から

- ・格差はゼロになる予定、という認識でよいか

事務局から

- ・財政面での課題もあり何ともいえないが、その課題を踏まえながらご意見を受け止めて、検討して行く予定、ということをご理解いただきたい

委員から

- ・「格差の是正」といっても、ほんのわずかな差を縮めただけで「是正しました」と言われても困ってしまう。はっきり「公私格差をなくします」「ゼロにします」と明言していただきたい

事務局から

- ・後ほどの説明でお話しようかと思っておりましたが、計画の中では、格差の是正について来年度（平成 29 年度）に最終的にどのくらいの金額にするかというところを決定することになっている。なるべく格差が少なくなるように進めていきたいと考えている

委員から

- ・その回答では納得できない。そもそもなぜ幼稚園の保育料だけに格差があるのか

事務局から

- ・磐田の場合、圧倒的に公立の園のほうが多く、私立が少ないという状況がある。その中で、新制度のスタートに合わせて一気に保育料を統一するにはあまりに保育料に差があった。市としても、保育料に差があることは決してよいことだとは考えていない。できるだけ差を縮めたいと考えているが、段階を踏んで是正していく方法をとりたいと考えている。縮めるだけでなく同額に、という意見があることは承知しているので、それも含めながら、来年度検討していきたい。現時点では、格差をなくすと断言はできない

委員から

- ・もし（保育料を公私立の園の間で）同額にした場合に、新たに市が負担する額はいくらか

事務局から

- ・「同額」の捉え方でまったく違ってくる。公立園の保育料を下げずに私立の保育料水準まで私立の保育料を下げるのか、ちょうど中間の額にするのか、または公立の保育料を上げて私立と同額にするのか。そのパターンによって違うので、現状では試算はできていない

委員から

- ・他市の状況をみると、保育料を決める子ども・子育て会議とは違う懇談会や会議を立ち上げているところがあるが、磐田市はそういった取り組みを行っているのか

事務局から

- ・現状では、そのような組織はない

委員から

- ・保育料の公私格差をなくし、同額にすることに対する反対はないのか。サロンで母親の話を聞くと母親たちは、保育料や自分が住む場所などの条件から各自で基準を作って園の選択を行っていると感じる。そのような状況の中、公私の幼稚園保育料を同額にするということに対して、反対意見が出ることもあるのではないかと考えるが、そのような声はあるか

事務局から

- ・同額にすることについて広く意見を伺っていないこともあるが、反対意見はいただいている。ただ、おっしゃるように、保護者もその違いを分かって選んでいるということはあると考える

委員から

- ・都会では保育料を同額にしたくない、と考える経営者もいる。自治体からの補助金を入れて同額にしてしまうと、収入が同じになり利益が限られてしまうため、高い保育料でも一定以上の入園が見込まれる園では、同額の保育料にしないであえて高額な保育料をとって、それに見合うサービスをする園もある。ただ、都会とは磐田は違う。この17万人都市で、高い保育料で充実した経営を行おうとしても、物理的に入園者の確保が難しい、と言うことになってしまう。なかなか難しい判断だということは承知している

事務局から

- ・注意点として、いま議論になっている「公立園・私立園の保育料格差是正」における「私立園」とは、平成27年度から始まっている「子ども・子育て支援新制度の枠に入る私立園」のことであり、新制度の枠に入らない私立園は変わらず独自の保育料を設定し保育サービスの提供を行うことになるので、格差是正の対象とならないことに注意されたい

委員から

- ・先ほど公私格差是正の際に、同額とした場合の市負担額の試算はまだ行っていないとのことだったが、やはり数字を出さないと分からないので、いずれのパターンも試算してみた上で議論をするべきではないか

事務局から

- ・数字を出していないというのは、全国的な状況や他市他県の状況が把握しきれていない状況だということ。委員がおっしゃるような数字を具体的に出して議論するのは次段階であると考えている。当然、財政的な影響については、今後具体的な数字を出して議論させていただく

委員から

- ・近隣市では、私立の保育料を決める際に応能負担の部分も含めて保育料を決めていった例があると聞く。色々な条件や変数がある中でどのように試算するかは難しいと思うが、市で検討していく段階にあることだと理解した

委員から

- ・「不審者対策や不審者の情報の伝達」とあるが、最近行き過ぎた警戒により逆に問題、とい

うような事例も聞く。例えばあいさつをただけで不審者扱いされる、というような事案。不審者扱いされる事例が多すぎて、逆に本当の不審者が分かりづらくなってしまいうことに對して、対策が必要と思うが、何か考えていることはあるか

事務局から

- ・地域での声かけの仕方も難しくなっている中で、学校教育課から学校を通じて、適切な声かけができるように案内ができればと考えている

委員から

- ・確かに難しい。学校運営協議会でもどのように地域の方の顔が分かる関係にしていくかということは苦慮していると思うので、地域の人と一緒に考えることができればよいと思った

事務局から

- ・学校運営協議会は、市内小中学校 32 校それぞれにある。そのような話を、地域の代表の方が学校運営協議会の場で話をして、各団体へ降ろしていく仕組みがあるので、教育委員会へ今のお話（地域との連携についての話）を伝える

委員から

- ・出産前に様々な援助をしているというのは非常に良いことだと思う。父親となる男性に向けたサポートも産前期に行うべきと考えるが、いかがか

事務局から

- ・本年度、子育て支援課でプレパパママ講座を実施した。妊娠中の奥さんとそのパートナーを対象に行ったが、子どもが生まれてしまうと夫婦間のコミュニケーションがなかなか取れないので、生まれた後のことを想定しながら父親・母親という立場でどのようにコミュニケーションをとっていくかという内容で講座を実施した。また教育委員会の家庭教育講座で、市内の助産院から助産師を招き、奥さんがどのような状況にあるかをご主人が同席する中で伝える、ということも行った

委員から

- ・両親そろってやる講座も良いが、父親限定で行う講座は必要。こういうふうに接すると母親はがんばれる、ということを教えられるので、なかなか難しいかもしれないが、働いている方のことを考えて夜間や土日の昼間に開催することが必要だと考える

③磐田市幼稚園・保育園再編計画（第 2 期）」について

事務局より説明（資料は公表前のため、当日配布し議事終了後に回収）

事務局から

- ・磐田市幼稚園保育園再編計画は、厳しい財政状況の中、将来にわたって多様な教育保育に応え、充実した保育環境を持続していくことを主な目的としている。これまで平成 25 年度から平成 28 年度までを計画期間とした第 1 期計画に基づいて施策を進めてきたが、本年度末をもって期間終了とな

るので、平成 29 年度から平成 33 年度までを計画期間とした第 2 期計画を策定するもの。本年度、市役所内部において企画部門・総務部門・財政部門・福祉部門・都市計画部門・教育委員会部門・子育て部門からなる策定委員会を設け、策定を進めてきた

- 資料の内容を簡単に説明
- 基本方針・計画期間・重点施策・実施計画について説明
- 各園の計画進捗状況を説明（平成 28 年度から進んでいるものもある）

補足

- ・企業主導型保育事業は平成 28 年度から始まった制度だが、ヤマハ発動機やNTN、ロックフィールド等の既存の事業所内保育所が国の支援を受けられるというものではない。ただ、従業員にはメリットになるので、今後企業に十分な周知をしていく予定

委員から

- ・1 点目は、今問題になっている「営利を追求しすぎたことにより、子どもの生活環境が危ぶまれるほどひどい状況の保育所」の問題は、企業型保育園が営利目的である以上、もっと出てくると思われる。認可をする際には、チェック体制を含めて、現場に直接行って確認する等しっかりやっていただきたい。事故が起こってからでは遅い
- ・2 点目は、公立保育園の質の向上という点について、近隣市では、幼保こ園の全職員が参加する「部会」を作り、職員の質の向上に取り組んでいると聞く。この例を参考に、具体的にどう取り組んでいくか、せめて他市の流れだけでも把握しておいてほしい
- ・3 点目は、民営化は良い流れだが、公募をどこまでやるか。県外まで広げるのは難しいかもしれないが、せめて県内まで広げて、社会福祉法人格・学校法人格を持っているところでよい保育をしてくれる事業所があるかもしれないので、検討してほしい。今まではどのように公募していたか、また今後どのように公募していく予定か、教えてほしい

事務局から

- ・1 点目の「営利目的の保育所」の件について、運営主体がどのような組織であってもそうでなくても保育のレベルが一定以上であるように気をつけることは重要。現状、磐田の幼保こ園で株式会社が参入しているところはない。小規模保育所の中で個人でやっているところの一部があるが、審査を経た上で経営をお願いしている。ただ、今後様々な運営主体の事業所が出てくることは想定されるので、書面だけで認めるようなことがないように、認可認定の基準を確認すること、またその体制の継続確認についてはしっかりやっていきたいと考えている

委員から

- ・営利企業が営利を求めすぎた運営をする場合、キャッシュフローや運営の状況に（異常な経営をしている状況が）現れてくる。可能ならば、そういった項目もチェックしてほしい

事務局から

- ・2 点目の保育の質の向上は、常に目指してしていかななくてはならない点だと感じている。公私立関

係なく磐田の子ども達のためにやっていかななくてはならない。他市の職員が自発的に研修を行っている事例を紹介いただいたが、どうやっているのか、参考になる点はあるか確認していきたい

委員から

- ・近隣市では、主導は教育委員会と聞いている。中心になる人間が必要ではあるが、良い点はどんどん取り入れていってほしい。何か踏み出すきっかけを作っていただきたい。

事務局から

- ・公立問わず各園で研修は行っているので、その輪を広げられるかも含めて検討していきたい
- ・3点目の民営化については、計画にあるように平成30年度から実施していく予定。公募の範囲については、これまでは県内全域ではなく県西部地域で、ということだった。これからの範囲は、今までどおりか、拡大していくか平成29年度に検討していきたい。範囲を拡大・縮小したときのそれぞれのプラス面も考慮したい

委員から

- ・いままで、どこかで民営化した園はあるか

事務局から

- ・今之浦保育園と磐田南保育園の2園を統合していずみ第3保育園として民営化した。また豊田南保育園を民営化した

委員から

- ・その際は、そのような範囲に公募をかけたのか

事務局から

- ・「保育園」ということで、社会福祉法人に声かけし、HPにも掲載した

委員から

- ・平成29年度開園する園で、保育士を確保できずにかなりの部分を派遣で確保したという話を聞いた。現実的に仕方ない部分ではあると思うが、今後、認可している園やこれから認可していく園がまったく保育士が集まらず開くことができないという事態が起こった場合、市としてはどうするのか

事務局から

- ・保育士の確保の難しさについては、確かに全国的に公私立関係なく問題になっている。ただ、新しく開園する園について確保ができていない、ということは絶対にあってはならないし、県の認可が現実的におりない。ただ、市が入園調整等で介入し入園希望者に責任を負っている部分があるので、もしそういう状態になった場合は、協力して問題の解決にあたっていくことになると思われる

委員から

- ・具体的に「協力」というと、市の職員をそちらに回してでも、ということでしょうか

事務局から

- ・市の職員を派遣し対応することは想定していない

委員から

- ・新しく開設する園だと、リクルートの方法さえ分からない、という園があると聞く。そういった部分から市が援助できると良いのではないか

その他、委員から意見・要望

- ・大学・専門学校の保育関係学科への入学希望者が今年は激減していると聞く。理由はマスコミが「保育士の待遇が悪いので改善しなければ」と報道した結果。「そんなに悪い状況なのか」と敬遠されるようになってしまった。今までは「資格を取る人は多いけれど就職の希望者は少ない」という状況だったが、今は「資格を取る人まで激減している」という状況。多感な子どもの頃から小さい子や老人相手の実習等で見聞を広げることでしか、根本的な改善につながらないのではないか。教育委員会の方で、ぜひそういう機会を設けるようにしてほしい
- ・国は潜在保育士（保育士等の資格を持つが、保育現場に勤務していない方）を200万人掘り起こすといっているが、教科書のような決まりがない保育の現場で、ただ資格を持っているだけで良いのか。もっと子どもの気持ちに寄り添うことができる人間を育てていくことが重要ではないか
- ・せっかく（仮称）子ども図書館が体育施設の近くにできる予定があるので、何か磐田の教育保育の特色のようなもの、「磐田っ子らしさ」のようなものを育ててほしい

5. 次回会議について

来年度は本年度と同様2回の会議を予定している。日程等についてはまた連絡させていただく

6. 閉会